

事務 事業名	コード1	5100	防犯対策事務費	課	総務課					
	コード2	②	防犯灯(防犯灯維持管理費助成金) ☐ 主要事業	所属班	地域安全班					
				電話番号	62-5311	内線	228			
施策 体系	基本方針	1	安全で魅力のあるまちづくり	予算	会計		款	項	目	
	施策	3	交通安全・防犯対策	科目	一般会計		02	01	11	
	施策の展開	4	防犯体制の充実	根拠 法令	旭市安全で安心なまちづくり条例					
	基本事業	41	防犯施設の整備							

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	●通学路等の(夜間における安全確保を図るための)防犯対策として、区長や自治会長の申請により市において防犯灯の新規設置を行っている。(新規設置費用は市が負担)●市で管理している防犯灯(158灯)の維持管理(修繕・球交換・電気料金など)を行っている。●区や自治会の申請により設置された防犯灯約5,000灯については、区や自治会等が維持管理(修繕・球交換・電気料金など)を行っており、市が維持管理費の助成として、1灯当たり2,000円の助成を行っている。市が直接設置している防犯灯は全額維持管理費を市が負担。 【維持管理費助成金の算出方法】区や自治会で管理している防犯灯の灯数×2,000円(年額) 【業務の流れ】 ・防犯灯維持管理費助成金:防犯灯灯数の確認(東京電力へ照会)→資料の作成(通知文、請求書など)→区長等へ郵送→受付→振込みシステムへの入力・確認作業 ・防犯灯設置工事:区長等からの申請→現地確認→見積依頼(見積依頼書、仕様書作成)→契約→設置工事→検査

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.負担金補助及び交付金	9,518
2.工事請負費	1,603
3.使用料及び賃借料	—
4.修繕料	144
5.その他	752
【前年度比増減理由】防犯灯設置箇所の増加による助成金の増額	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
【防犯灯維持管理費助成金】灯数の確認:5時間、資料作成・郵送:5時間、受付:1分×163団体、振込みシステム入力・確認作業:5分×163団体 【防犯灯設置工事】現地確認:5時間×5回、資料作成:5時間×5回 【防犯灯修繕】現地確認、依頼、支払い:5時間 【電気料金】支払い業務:10分×12ヶ月 ※26年度見込み【防犯灯LED化】区等との調整:10時間、資料作成:50時間、発注事務(要領作成、書類確認、プレゼンテーション、契約、検査など):140時間	

事業費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.負担金補助及び交付金	千円	9,236	9,362	9,518	9,614
2.工事請負費	千円	1,399	1,266	1,603	—
3.使用料及び賃借料	千円	—	—	—	13,589
4.修繕料	千円	228	494	144	130
5.その他	千円	666	783	752	815
事業費計(A)	千円	11,529	11,904	12,017	24,148
うち一般財源	千円	11,529	11,904	12,017	24,148
人件費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
正規職員従事人数	人	0.04	0.04	0.04	0.12
延べ業務時間	時間	83	83	83	233
人件費計(B)	千円	317	317	317	887
トータルコスト(A)+(B)	千円	11,846	12,221	12,334	25,035

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) ・防犯灯維持管理費助成金の交付 ・防犯灯設置工事	ア 助成金交付団体数 (区、自治会、防犯灯設置に係る任意団体数)	団体	160	163	162	162
	26年度計画(26年度に計画している主な活動) ・防犯灯維持管理費助成金の交付 ・防犯灯LED化	イ 全防犯灯の灯数 (区や自治会等が管理している防犯灯数)	灯	4,776 (4,618)	4,839 (4,681)	4,917 (4,759)	4,965 (4,807)
		ウ 防犯灯設置箇所数 (新規に防犯灯の設置を行った箇所数)	箇所	62	56	71	70
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	市民、旭市内在勤者	ア 人口(4月1日現在)	人	69,749	69,223	68,725	68,241
		イ					
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) ・防犯灯の設置や適切な管理により、夜間安全に歩行することができる(歩行者の安全確保につながり、犯罪抑止効果が期待される)。	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
		ア 旭市内における街頭犯罪件数 (街頭犯罪8種の発生件数)	件	314	271	225	210
		イ					
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	市民や観光客等の安全を確保し、犯罪に遭わないようにする。	ア 旭市内の犯罪件数 (減少傾向にあるか)	件	819	735	689	650
		イ					

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
防犯灯の設置や維持管理費助成金については、旭・海上・飯岡・干潟において、それぞれ金額や方法が違っていたため、合併時に統一を行った。	・現在、市内には防犯灯が約5,000灯あるが、毎年、防犯灯の設置申請があり、年度によってばらばらではあるが、申請が無くなる可能性が極めて低い。毎年、設置申請があるため、維持管理費助成金についても、年々増加傾向である。 ・市外では防犯灯のLED化が進んでいる。	市民から「道路に設置してある防犯灯以外の照明についても、助成金が出ないか？(児童公園内の照明や商店街などで設置した照明など)」との要望がある。

事務事業名	防犯対策事務費 防犯灯(防犯灯維持管理費助成金)	課名	総務課	班名	地域安全班
-------	-----------------------------	----	-----	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 防犯灯を設置し、適切な維持管理を行うことで犯罪の抑止を図ることは、安全で魅力のあるまちづくりに繋がる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 夜間の安全確保や犯罪の抑止効果のため、防犯灯を設置し、適切に維持管理する事業であり、対象、意図ともに適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 後期基本計画における市民アンケートにおいて、優先すべき施策として防犯体制の充実が上位にあり、市民の防犯に対する関心は高いものである。こうした防犯に対して、区や自治会等が維持管理をしている防犯灯の役割は非常に大きく、適切な維持管理を行うための助成金は妥当である。
	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 街頭犯罪件数も年々減少しているため、防犯灯の設置や適切な維持管理により犯罪発生を抑止につながっている。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 今後も地元からの要望による効果的な場所への防犯灯の設置や適切な維持管理を行うことにより、成果は向上すると考えられる。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(交通安全施設維持補修事業) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 区や自治会等からの要望箇所の現状に応じて、道路照明、防犯灯を選択して設置しており、既に連携している。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 防犯灯のLED化を実施することにより、区や自治会等の維持管理費も軽減されるため、助成金の廃止を行うことができ、事業費の削減が可能である。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 防犯灯のLED化を実施し、助成金の廃止により人件費の削減も図られる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 区や自治会等で管理している防犯灯について、1灯当たり2,000円として同額の助成を行っているため公平である。また、電気料金のほとんどを助成金でまかなっているが、地域からの要望に基づき設置するものであり、地域に一部の負担を求めることはやむをえない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	市内の犯罪抑止のためには、防犯灯の設置や区や自治会等への助成による適切な維持管理は必要である。しかし、防犯灯設置台数の増加によって防犯灯全体の電気料金、修繕等の費用が増大していることから、防犯灯のLED化により全体の事業費を削減する必要がある。このことに伴い、今まで区や自治会等が負担していた修繕や球交換については市が負担することと、LED化により電気料金が大幅に削減されることを勘案し、維持管理費助成金の削減を実施する。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性		(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☐ 目的再設定	☐ 行政関与の見直し	
☒ 事業のやり方改善による成果向上	☐ 事業統廃合・連携(関連事業:)	
☒ 事業のやり方改善による事業費削減	☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	
☐ 受益機会の適正化	☐ 費用負担の適正化	
☐ 廃止・休止		
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？		
いつまでに	なにを、どうするのか？	
平成27年3月まで	防犯灯のLED化を行い、来年度以降の防犯灯維持管理費助成金を削減する。	
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		
・防犯灯助成金を削除するためには、今年度中に防犯灯LED化を完了させなければならない。		